

この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第17回



緒方 英樹

正会員 (一財)全国建設研修センター
土木学会 社会コミュニケーション委員会 幹事長

絵本やアニメで土木の魅力を伝え、通称「社コミ」委員会で学会の広報にも尽力されている緒方さんから、そのお仕事の世界観が感じられる本をご紹介します。

土

木とは無縁の演劇・映画の世界ご出身の緒方さんは、全国建設研修センターの仕事として土木を広く知ってもらおう工夫を考えた。

そして絵本という形で小学校の副読本に滑り込む企画を立てる。紹介したい本はまずこの絵本シリーズ。古代から近代までの優れた土木事業をなした人物にフォーカスした5冊。ラインアップは当初からすべて決めていたが、受け入れられやすさを

考えてまず戦国武将の巻から作成する。企画、原稿を緒方さんご自身が手

がけ、絵は加古里子かこしこさんに依頼。とてもクラシックな絵だが『ダムをつくったお父さんたち』という絵本をすでに出版され、土木への理解と描き込みの正確さがあったからだ。表紙にはすべて「土木の絵本」と明記する。教育プログラムの変更などに翻弄されながらもニーズは広がり、いまはウェブサイトで公開されている。学校への浸透のさせ方も含め、知ってもらうための戦略がある。



OGATA Hideki

1953年宮崎県生まれ。絵本づくりの際に高橋裕先生と出会い、以来学会の広報系の活動に参加。2011年、こうした活動を基盤に「土木広報論」としてまとめ、博士号取得。

次いで八田與一よいちに関するバイブル的な古川勝三氏の

『台湾を愛した日本人』。現在は改訂版が出ています。飲水思源。台湾の荒野を豊かな農地に変えた一大利水事業を成し遂げた八田與一への感謝の気持ちとして、この言葉が今も台湾の人びとに生きている。改訂版には新たな写真が多数加わったが、その多くは緒方さんが台湾の取材で得たものである。緒方さんは台湾へのツアー企画など交流の促進に尽力されており、それについては次の6月号特集でご紹介いただく予定だが、そうした活動のいわば原点ともなった1冊である。

最後は日本のアニメーションの歴史を概観した1冊。八田與一を主人公としたアニメーション映画『パッテンライ!!』を制作する際に参考と

されたという。アニメートには息づくという意味がある。絵が動くことにはアニメーションが適している。緒方さんは直観的に思うが、実際の制作にはやはり裏付けも必要ということで、この本でアニメとは何か、その歴史は何かを学んだという。

絵本やアニメーションという媒体を通して、土木に関するイメージを正しく伝えることは刺激できるか。緒方さんのこの言葉は、コンテンツを正確に伝えることはばかりを考えていた私にとって、とても新鮮だった。確かに、一番大切なことは相手の心に豊かなイメージが膨らむことなのだ。素敵なヒントをいただいたインタビューであった。



土木の絵本シリーズ 全5巻

(一財)全国建設研修センター



台湾を愛した日本人 (改訂版)

—土木技師

八田與一の生涯—

古川勝三：創風社出版



日本アニメーションの力 —85年の歴史を貫く2つの軸

津堅信之：NTT出版